

もっと香川を伝える

～University Radio project～

代表者 須原 沙紀 (経済学部経営システム学科 3 年)

1. 目的と概要

本プロジェクトは、「香大生が今の香川を伝える」という取組である。私たちは平成 25 年度から 3 年間にわたりラジオ番組制作を行ってきた。今年度は主に 香川の地域ニュースや出来事を大学生の目線でどう考えているかをレポートした。その際、教育学部・法学部・経済学部・工学部・農学部の学生で構成されている団体であるという強みを活かし、学んでいる学問分野に偏らない番組制作を行った。FM高松で 2016 年 7 月から 2017 年 3 月にかけて 22 時から 22 時 30 分の 30 分番組を毎月第 1、第 3 水曜日に放送し、合計で 20 本制作した。

2. 実施期間 (実施日)

平成 28 年 7 月 6 日から 平成 29 年 3 月 29 日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

本プロジェクト事業は、毎月第 1、第 3 水曜日の 22 時から 22 時 30 分まで FM 高松においてラジオ放送を行ったものである。今年度のテーマである「香川を伝える」に 2016 年は世界的に有名な瀬戸内国際芸術祭 2016 についての内容も含め、「"もっと"香川を伝える」というコンセプトのもと、番組作りのため、我々は香川県内や瀬戸内海に浮かぶ島々各地に取材に向か



い、その様子を放送にまとめた。また番組作りだけでなく、昨年度から継続している広島経済大学へ訪問して FM ハムスター運営プロジェクトの学生が持っている生放送番組の出演や、こちらに招いて共同で番組作りを行うなど、大学間交流などの活動も積極的に行った。その時の放送は FM 高松、FM ハムスターの両放送局で放送済みである。

11 月 27 日には、現役で活躍されているお笑い芸人のリンクアップとっしー氏をお招

きして、トークに関するノウハウを教えていただき勉強会を開き、今後さらにラジオ番組の内容をおもしろくするためにはどうするかといった基礎づくりを学んだ。2月19日、20日には1年生をメインとして京都・大阪へ研修旅行に向かい、プロの囃家であるNHK大阪放送局の見学や落語家による落語を見て技術を吸収した。京都では京都三条ラジオカフェ、RADIO MIX KYOTOの2つのコミュニティFMへ向かい、実際に生放送に出演させていただいた。その中で、私たちと同じコミュニティFMで番組作りをしていく中でどういう風に運営・番組作りを行っているのかを学んだ。また、10月31日のホームカミングデーではOB・OGの方に向けての活動発表や、同じ夢チャレンジプロジェクト採択事業である「第10回わくわくコンサート」の司会・影ナレーションなど、ラジオ番組作りとは異なるが、我々の活動には欠かせない“声”を使った様々な活動にも挑戦した。今年度の活動内容は以下のとおりである。

放送日	内容
7月6日	選挙（投票者への呼びかけ 雨の日トーク
7月20日	瀬戸芸 zyutune（せとげいじゅチューン 夏の思い出
8月3日	工学部トーク 高松港でのレポート
8月17日	アジア村レポート
9月7日	直島レポート
9月21日	アジア村レポート
9月28日	広島経済大学の学生について （ゲスト：広島経済大学貫名ゼミ
10月5日	女木島レポート
10月19日	大島レポート
11月2日	粟島レポート 高見島レポート
11月16日	直島レポート
12月7日	中谷と行ってみたいなこんなところ （香川県内のおすすめスポット紹介
12月21日	リンクアップとっしー氏勉強会の内容 うどんの国の金色毛毯特集
1月4日	児童文化研究会特集 （ゲスト：教育学部1年 高木惣善
1月18日	留学生特集 （ゲスト：法学部3年 柏慶次郎
2月1日	善通寺・乃木館特集
2月15日	世界の中心で愛を叫ぶロケ地巡り
3月1日	大阪・京都研修旅行レポート その1
3月15日	大阪・京都研修旅行レポート その2
3月29日	Art Time Junction 平成28年度総集編

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクトの実施により、番組のリスナーの方々に対して、香川県内の情報や、実際に島に行き多くの芸術作品をレポートし、その魅力を集めるなど、瀬戸内国際芸術祭をはじめとした香川の魅力を香川大学生の目線から発信できた。

また、ラジオ番組制作の活動を通して他大学との交流もできた。9月14日、本プロジェクトのメンバー7名が広島経済大学を訪問した。お昼と夕方の生放送に出演させていただくなど、昨年度に引き続き広島経済大学の「FMハムスター運営プロジェクト」のメンバーとも継続して交流を行っている。

9月19、20日には広島経済大学の貫名先生のゼミ生を香川大学へ招いた。コミュニケーションゲームなどを通して「伝える」ということの難しさや大切さを知ることができた。Art Time Junctionの特番合同収録も行い、他大学との交流を深く行うことができ、良い機会となった。

学内だけでなく外部の人や他大学との交流や瀬戸内国際芸術祭特集を行うことで、改めて香川県内の知らなかった魅力を再発見することができた。学生主体で一から番組をつくり、香川の魅力をラジオで発信していくと同時に香川大学の情報発信、香川大学の広報という一面も担ったのではないだろうか。



広島経済大学FMハムスター生放送出演

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

本プロジェクトの活動はすべて学生が中心となり行っている。事前に企画出し・情報収集を行い、自分の足で現場に赴き取材する。その後の番組の構成、収録、編集まですべて学生が香川大学内でメンバー同士の協力により行っている。それぞれが一つの番組を制作するのに必要な役割を理解したうえで、自分の仕事をこなすことで番組はできあがっている。このように、学生一人ひとりが自分の仕事に責任を持ち、それを最後までやりきるという経験ができています。これは私たち学生に「責任」という言葉の重みや、仕事に対する意識を高めてくれる良い経験となっている。

また、11月27日、お笑い芸人のリンクアップとっしー氏によるラジオや会話の特別講座を開催し、個々の能力の向上を図った。プロの方との交流は本プロジェクトメンバーに強く影響を与え、ラジオのときだけでなく、普段の日常のときから相手のことを意識するコミュニケーションを図るよう意識が変わってきている。

本プロジェクトは、私たち学生に確実にコミュニケーション能力の向上と、番組を作るうえで必要な「チームワーク」の重要性を学ばせるという非常に有効な影響を与えてくれている。



リンクアップとっしー氏による勉強会

6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

私たちは本プロジェクトで様々な経験をしてきた。そのなかで感じたことは、もっと多くの人に聞いてもらえる番組を作りたいということである。SNSをとおして番宣を行ったり、呼びかけたりしているがまだまだその認知度は低く、香大生でありながらその存在を知らないという学生も多い。また、学外の一般の方々や地域の方、それ以外の方々にももっと番組を聞いてもらいたい。番組の存在を広めるとともに、楽しんでもらいたく思っている。しかし、学生目線の番組構成であるが故に、一般の方々からすれば理解しがたい話や単語、聞き苦しい部分が多々あると思われる。それは私たちメンバーの実力不足であり、リスナーを意識した番組作り、より面白く、勉強になる「良い番組」を作れていないということである。

今年度は瀬戸内国際芸術祭を特集し、地域の方やそれ以外の方にも興味を持ってもらえるような番組作りを心掛けてきた。もっと多くの方々に聞いてもらえる番組を作るにはどうすればよいのか。そのためにはもっとリスナーが聞いていて、興味を引くような内容、会話、雰囲気などの要素を向上させることにあると思われる。今後は、メンバー個々のスキルアップを図りつつ、多くの人に知ってもらい聞いてもらえるような番組を作ること、そして香川大学の広報としてより幅広く活躍していくことを目標としていきたい。広島経済大学の学生やとっしー氏たちと交流し、私たちはまだまだ未熟であることが改めて実感できた。今後、今年度の反省点を改善しつつ、さらに聞いていて楽しく勉強になる「良い番組」を作っていきたい。

7. 実施メンバー

代表者 須原 沙紀（経済学部3年）

構成員 廣瀬 涉（経済学部4年）

岩木 勝也（法学部3年）

古市 かな子（経済学部3年）

谷 淳弘（工学部3年）

中田 尚記（教育学部1年）

THI NGOC TRAM LE（工学部1年）

加藤 昇（工学部4年）

宮脇 拓弥（経済学部3年）

田村 龍也（経済学部3年）

蓮井 宏輔（工学部3年）

中谷 優那（法学部1年）

木村 一豊（農学部1年）